

「責任」に自ら取り組んでいくこと

新町上 高木 範明



新成人を迎えられた皆さん、成人おめでとうございます。私も十二年前に皆さんと同じように成人式を迎えました。当時の自分を振り返ってみると、「二十歳」イコール「大人になった」という意識は薄く、自分がこれからどんな大人になるのか考えたことはありませんでした。成人式で久しぶりに再会した仲間の中には、既に社会に出て働いている友人や将来の夢に向かって自分を磨いている友人もいて、そのような姿が自分よりも大人びて見え、少し羨ましく感じました。

加していくことになる」という、簡単なようで難しいお言葉を頂戴したことを今でも覚えています。では、責任のある社会参加とはどういうことでしょうか？私は大学を卒業し、地元にてターン就職で戻ってきました。就職の翌々年(平成十六年)が御柱祭ということもあり、私も小さい頃から憧れていた御柱祭に関わりたいう一心で、湯田四町長持保存会に入会しました。長持保存会は、長持という地域伝統技能を守り、後世に伝えるというのを目的としています。入会当初は、自分が楽しむことに精一杯で、周りの動きが目に入りませんでした。二度の御柱を経験して、若手への技能の継承につなげるために、これまで多くの先輩方が苦勞をされていたことを知りました。私も保

存会の一員として、先輩方から引き継いだ伝統という名のバトンを、更に次の世代に対して教え、引き継いでいくことが私にとっての「責任」であると考えています。

また長持と同時期に下諏訪町消防団にも入団しました。消防団という、「訓練で朝が早い」、「休日の行事が多い」と、とかくマイナスイメージを持たれている方が多いのが現状です。昨年は東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、東北地区では今なお、多くの方々が避難生活を余儀なくされております。下諏訪町でも、平成十八年の豪雨水害では、多くの住宅で浸水被害が発生したことは、記憶に新しいことと思います。我々消防団では、このような自然災害や火災の際に、自分の家族や地域の仲間達、大切な思い出を守るという「責任」を果たす為に、日々訓練を重ねています。

「責任」とは、今後の皆さんの人生の中で気付かないうちに背負わされていくものだ、と思います。今は自覚がなくても、いつか必ず、責任の重さに気付く時が来るはず。そのときがすぐなのか、ずっと先なのか、一息が付かないままなのか、それは人それぞれかもしれない。ただ、いつか気が付くことを待つより、「責任」というものに對して自分から積極的に取り組んでいくことが、「大人」になるということではないでしょうか。

最後になりますが、皆さんの将来が実り多いものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。



早朝の放水訓練

つましくても心豊かな人生を送る力を

高浜 宮坂 直子



私の成人式は三十六年前、役場の四階で行われました。学生だったので、成人した自覚はあまりなく、振り袖を着て友達に会えることや、写真館での記念撮影がとても楽しみだったのを覚えています。

今考えると私の大人への第一歩は、中学三年の「経理の仕事をした」と思った時だったよ。うな気がします。父が経理の仕事をやっていたのでそれを見ていて、この仕事だったら結婚しても一生続けていくことができると思っていたのです。短大で簿記を勉強し、卒業後は会計事務所にて五年間勤めました。学校での簿記と実際の簿記はかな

り違ってました。その会計事務所で身につけたことが、家庭をもちながら仕事を続けている今の自分に、大きく役立っています。

私には、大人とはこうありたいと思うことが三つあります。第一に、働いてお金をかせぐ力をもつことです。両親は食っていくことができるように、手に職をつけることを私に望まれました。私の人生の基礎もここにあり。必要とされ、お金をもらえることは、生きていく自信にもつながります。

第二に、自分の人生に責任を持つようになることです。自己決断、自己責任とよく言われます。自分で決めたからには、責任は全部自分にあるのだと考え、最後まで責任をもって行動

し、他の人に責任を転嫁しないことが、大人になることだと思います。

第三に、誰の足も踏まない代わりに、誰にも自分の足を踏ませない。いじめてもいじめられなくてもいけないのです。たとえそれが家族であっても、同じ事だと思えます。自分も自分以外の人も大切にできることが、大人ではないかと考えています。

私は戦後、世の中が立ち直つてから生まれ、社会全体が、御神輿を担いで山を登っているような活気ある雰囲気の中で育ちました。成人して社会に出るころは、誰もが働けばそれなりの生活ができる世の中でした。

今年成人になる方たちのこれから生きていく時代は、明るい未来を信じられた時代とは違います。不況、放射能汚染、年金制度の崩壊など、考えればため息が出るような社会を、私たち大人は、皆さんにバトンタッチしないとけません。

でも、物を追いかけて、本当に大切なことをどこかに忘れてしまふのではなく、つましくても心豊かな人生を送る力を、何が幸せなのか見抜く力を、身につけてほしいと思います。

何かよいことをすれば、回り回って、いつか自分でなくても、自分の大切な人たちに返ってくるだろう。反対に、悪いことをすれば、必ずそれは自分に返ってくる。私はそう考えて生きてきました。

人生は考え次第です。何度失敗しても、新しい事に立ち向かう勇気さえ持っていれば何とかなるものです。明るい未来を、自分の力で作っていただく。い。



成人の日に